

別記様式

会 議 録

会議の名称	令和4年度第4回戸田市外部評価委員会 (施策5 生涯学習活動の推進)
開催日時	令和4年8月5日(金)午後1時10分 ~ 午後2時35分
開催方法	Web会議
委員長等氏名	委員長 佐藤 徹 副委員長 長野 基
出席者氏名 (委員)	委員 興松 敬史 委員 石田 真由美 委員 宮崎 仁美 委員 芳賀 良 委員 長谷川 孝雄
欠席者氏名 (委員)	無し
説明のため 出席した者	教育委員会事務局 次長 川和田 亨 次長 篠原 博 生涯学習課 課長 鎌田 陽子 課長 高屋 勝利 主幹 吉田 雅也 主幹 名古屋 俊之
事務局	石橋部長 佐藤次長 甲原課長 石嶋主幹
議 題	1 外部評価委員紹介 2 担当部局紹介 3 外部評価ヒアリング
会議の経過 及び 会議結果	別紙のとおり
会議資料	・次第及びタイムテーブル ・施策評価シート及び事務事業評価シート ・ロジック・モデルシート(令和3年度版) ・事前質問及び回答

(会議の経過)

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>1 開 会</p> <p>2 外部評価委員紹介 各委員の紹介を行った。</p> <p>3 担当部局紹介 評価対象施策担当部局の紹介を行った。</p> <p>4 外部評価ヒアリング</p> <p>○施策の概要 担当者 概要説明を行った。</p> <p>○事務事業の妥当性、施策指標の妥当性 委員 図書館のシステム改修内容及び電子図書館の運用について詳細を教えてください。また、システム改修等が利用者の満足度に繋がるのか。</p> <p>担当者 開館前に図書館前に並ばれる方の混雑回避のため、自宅から事前にネットで座席を予約する仕組みを構築しようとしている。</p> <p>電子図書館は昨年1月に導入しているが、現状の図書館システムが連携しておらず、紙で検索を行い、電子図書館の入口にてもう一度検索する手間があり、2回検索する必要があるため、今回のシステム改修で、1回で検索完了できるようにし、利便性を高めていく。</p> <p>貸出券には1年間の有効期限がある。1年ごとの更新時には、窓口で免許証の写し等を対面で提示することになっているが、マイナンバーカードとの連携により、自動更新の仕組みを考えている。また、貸出券を作る段階で、図書館の窓口に来館する必要があるが、オンライン申請により対応できないか検討している。</p> <p>利用者自身で、免許証の写し等を電子システム上で登録することで、利用申請ができる仕組みを構築していく。また、貸出券自体をスマホで表示させるようなシステムの構築も検討していることから、来年度の予算要求に向け</p>

	<p>て財政当局と調整している。</p> <p>利用者の満足度につながるかという点であるが、年に1回実施しているアンケート結果からもオンライン申請に係る要望が多いことから、今回のシステム改修の中で、可能な限り対応し、来館者の増加へと繋げていきたいと考えている。</p>
委員	<p>質問の1点目としては、生涯学習活動を行っている人が減っていることに対する施策設定という認識でよいか。</p> <p>2点目は、知的情報物を提供する図書館等の事業と実際の生涯学習で行う公民館事業がどのように連携していくのか教えてほしい。ロジック・モデルシートでは、分かれているが実際はどのように連携しているのか。</p>
担当者	<p>1点目の施策の目標設定について、コロナ禍において活動が制限されていて、市民があまり活動をできていないという現状がある。また、各施設で講座の中止等が余儀なくされており、行政が提供する学びの場も少なくなっている中で、令和3年度はICTの活用も行いながら、市民に学びを提供するため、様々な工夫をしてきた。</p> <p>目標値の設定については、コロナ以前に設定した値であり、コロナ禍の内容を反映させたものではない。コロナ禍だからこそ学びを楽しんでもらいたいので、各種公民館事業や市民大学講座等、図書館博物館含め、積極的に事業を推進し、目標値に到達できるようにしていきたい。</p> <p>2点目のロジック・モデルシートの作り方については、直接成果から中間成果への矢印が分かりづらい点があった。</p> <p>また、図書館・博物館・公民館の連携について、各施設は、生涯学習課の管轄であり、例えば、博物館に関連した審議会委員が公民館で講座を行い、その様子をオンデマンド配信するなどの連携事例がある。また、図書館と市民大学の関係性では、ロジック・モデルシートに表現できていなかったが具体的な取組として、市民大学で様々な講座を行っている。例えば、青山学院大学の講座では、芸術分野の講義に合わせて、図書館にある関連本の紹介をすることで、市民大学で受講した方が図書館を利用し、更に深い学びへと繋げている。</p> <p>公民館では、歴史講座の際に歴史資料を博物館から借りてきて実際に見な</p>

	<p>から受講するなどの連携を行っている。</p>
委員	<p>もう1点質問させていただく。事務事業評価シートにおいて、市民大学の事務事業の目標達成状況がCとなっている。すべての目標が達成できなかったということだが、デジタル化など様々な取組自体は良い評価をしているが、このCという評価で良いのか。単純に利用人数ではなく、事務事業の取組内容に則した指標にした方が良いと考えるが、どうか。</p>
担当者	<p>市民大学については、受講者数が減少傾向にあるということは事実である。また、事務事業評価結果については、Cと付けた理由としては、受益者負担等、一部見直しが必要で課題があると考えているためである。</p> <p>様々な学びを提供する中で、課題が明らかになり改善が必要であることや前年度に比べ受講者数の減少等が顕著に出ていることから、オンライン配信も積極的に行っているが、時代に応じた学びの提供という点では、工夫が必要という点から判断したものである。</p> <p>公の学びは民間とは異なり、無料で提供しているものであり、資料代等については、今後、受講者の負担ということも視野に入れ検討を進めていきたいと考えている。</p>
委員	<p>講座回数や参加人員からCと評価した訳ではなく、受益者負担の公平性という観点から評価したという認識でよいか。</p>
担当者	<p>講座回数や参加人員等含め、全ての目標に達成できなかったという点でC評価とした。</p>
委員	<p>オンラインやオンデマンドでは、利用者が約2倍に増加したとあるが、オンラインを活用するという点で成果がでていますが、これを評価することはできないのか。</p>
担当者	<p>オンライン講座等の実施により、新たな受講者層が開拓できたので、そこは成果として捉えているが、受講が多い高齢者に対してはオンライン受講の成果があまり挙がらなかった。</p>

<p>委員</p>	<p>事前質問 No 1 の質問に対する回答の下から 5 行目で、「地域課題の解決につながるロジックモデルとしては」という回答があるが、本日配布されたロジック・モデルシートには記載のないことだが、どちらで評価すべきか。</p> <p>2 点目として、質問 1 の中に「庁内福祉部門等とも連携をしております」と記載があるが、戸田市では、民生委員は庁内部門として指揮命令系統が働く位置づけとなっているのか。</p> <p>施策評価シートの関係課には、庁内福祉部門が未記載であるため、庁内部門との連携を図るとい回答と施策評価シートのずれは、どのように理解したらよいか。</p>
<p>担当者</p>	<p>回答内容の「地域課題の解決につながるロジックモデルとしては」は、説明を分かりやすくするために、こちらで加えた文言であり、事例を基に説明した方が分かりやすいと判断し、追加したものである。</p> <p>地域の課題は、地域や人によって感じ方が異なるため、地域のニーズなどに対応できるようアンテナを広げ、行政として学びの場を多く提供している。</p> <p>また、民生委員については、地域の方をお願いしているものだが、健康福祉部が事務局をしている民生委員の協議会と連携しながら進めていることから、福祉部門との連携という形で表記したものである。</p> <p>庁内関係の連携についても、様々な活動を通し、学びを提供する所管である生涯学習課として、何か横の繋がりを利用できないかというところで行っている。</p>
<p>委員</p>	<p>過去の出来事に対する評価の場なので、これから行うという未来の話と混同しないように気をつけないといけない部分であるため、1 点確認するが、「庁内福祉部門等との連携」は評価対象年度(令和 3 年度)に、あったのか。</p>
<p>担当者</p>	<p>評価対象年度についても連携して取組を行っていたが、高齢者への情報伝達については、改善の余地があるため、さらに強化して取り組んでいくという意味で回答したところである。</p>

委員	その事業は、事務事業だとどこに含まれるのか。
担当者	講座を展開している公民館事業や市民大学・家庭教育事業が該当してくる。講座等の情報について、高齢者など、広報やホームページでは届かない部分に対して、地域の力を借りながら、より届けられるように更なる強化を図っていくものである。
委員長	実績の評価であるため、施策評価シートの関係課欄が空欄となっている。連携したということであれば、関係課と調整した上で、記載していただきたい。
委員	事務事業評価シートの今年度の方向性の中に市長公約 No.45 として「図書館の居場所機能の充実やデジタル化の推進」について調整すると記載があるが、この内容について、教えてほしい。
担当者	「また来たくなる図書館」にも関係するが、気軽に立ち寄ってもらいたいという観点から、図書館の居場所機能の充実を推進しており、一例としては、Wi-Fi 環境の充実が挙げられる。Wi-Fi 環境の充実により、パソコンやスマホで調べものが可能となるため、居場所機能の充実の一つの柱であると考えている。また、直近では中央図書館の1階ロビーに椅子を数台設置し、気軽に利用できるようにするなどの取組を進め、居場所機能の充実を図っていく。
委員	<p>市民委員としての意見になるが、中央図書館の問題は、飲食する環境が周辺にあまりないことが挙げられる。</p> <p>民間のカフェを併設した書店などは賑わいがあり、あのような機能や賑わいをお願いしたい。具体的な提案となるが、図書館のはす向かいに戸田かけはし特別支援学校ができ、カフェを行う予定であったが、コロナがあり、カフェをオープンできていない。図書館利用者が利用できる飲食スペースなど、当該学校と連携し、カフェ機能の充実を検討していただきたい。</p> <p>2点目は、開館時間の延長について、プリムローズ等の児童館の自習室は午後9時まで利用できるが、図書館は午後8時までとなっている。仕事して</p>

<p>担当者</p>	<p>いる人が夜間に利用できるように開館時間を改善していただきたい。</p> <p>1点目の戸田かけはし特別支援学校との連携について、現在は施設の清掃等をボランティアという形で一緒に行っている。また、3階の郷土博物館は生徒もよく利用している。当該学校との更なる連携については、施設の指定管理者も含め、検討していく。</p> <p>2点目の中央図書館の開館時間は、午後8時まで、土日は、午後6時までとなっている。指定管理者との契約により、開館時間を取り決めているが、上戸田にある分館では、午後9時半まで開館しているため、仕事終わりの方の利用が可能となっていることから、中央図書館の開館時間についても検討していく。</p>
<p>委員</p>	<p>施策評価シートの担当部局の評価について、事務事業によって記載の有無が分かれているが、記載がない事務事業については、事務事業評価シートの内容で判断するのか。「5.事務事業の検討」のコメント欄の取扱いについて教えてほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>担当部局のコメントについて、全ての事務事業に対し、記載するという手法は取っておらず、以前からこのような記載方法である。</p> <p>コメントの有無により、事務事業への力の入れ方が決まってくる訳ではないが、外部からの見え方としては、コメントが無い事務事業は、尽力していないように見えてしまうため、コメントの統一性について、今後の検討課題としたい。</p>
<p>委員</p>	<p>内部評価の仕方になるが、外部評価のためだけでなく、コメントを記入することで部署内の評価においても、事業の見える化など、評価の重要度が増してくると考えることから、今後の検討をお願いしたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>担当部局の評価コメント欄は、どの場合に記載するのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>事務事業の中で特筆した部分がある場合に記載するものだが、記載する内容については、明確な基準を設けていないため、記載内容に幅がでていると</p>

	<p>いう現状がある。</p>
委員長	<p>この欄には、特記事項を記載するという認識でよいか</p>
事務局	<p>参考資料である事務事業評価シートと施策評価シートのコメント欄を合わせて確認する想定である。</p>
委員	<p>少年自然の家については令和3年3月に終了したが、今後この施設に変わる施設は検討しているのか。</p>
担当者	<p>少年自然の家は施設の老朽化に伴い、廃止となった。現在、小学校では、林間学校で国立赤城青少年交流の家を利用、中学校のスキー教室では、長野県の上田市の菅平高原の民間施設を利用している。</p> <p>今後については、ハード面の整備予定はないが、国立赤城青少年交流の家では、様々な施設があるため、林間学校だけでなく、市民に広く利用いただけるように、連携して情報の発信に努めていく。</p>
委員	<p>生涯学習を行っている人の割合が約40%となっていることについて、自分がよくなるための勉強である生涯学習を行っている人数が少ないと感じる。市民に対し、どのような質問に対する回答なのか。また、生涯学習として市民講座等を利用したという場合に限定した回答ということか。</p>
担当者	<p>調査項目としては、「あなたは現在（または過去1～2年の間に）文化・趣味・スポーツなどの活動（学習活動）をしていますか」という内容となっている。回答のサンプル数が2000で、回答率は38%であった。戸田市は近年若い世代が多く、今回の回答については、回答の多い世代は40代で、女性の回答が6割を占めている。仕事や子育てなど、活動が忙しく生涯学習のきっかけが無いという世代の方に多く回答をいただいたということで、今回はこのような数字にもなったのではないかと分析している。</p> <p>ただ、多世代がまちづくりに興味を持ち、まちづくりをしていきたいという点は、調査の中でも高い関心度があった項目であった。生涯学習のきっかけがないという点では、学びのデジタル化を積極的に推進することで、忙し</p>

	<p>い世代も学びやすい環境を整えていくことを考えている。</p> <p>また、調査項目の中では、文化・趣味・スポーツなどの学習活動をしている方という聞き方をしているが、もう少し細かな分野を示した方が、回答率が上がると考えているため、次回の調査では、質問の仕方も検討していきたいと考えている。</p>
委員長	<p>戸田市の「生涯学習活動」は、どのように定義しているのか。</p>
担当者	<p>事前質問 No 4 になるが、生涯学習推進計画において、市民自ら学びたいことに向き合うことで、自分らしい人生を歩んでいくことに繋がる活動と定義している。人生 100 年時代、長く豊かな人生を過ごしていくためには、新しい知識の吸収やスキルアップ、自分自身の考えを含め、楽しさや生きがいを実感し、アップデートしていくことが必要であると考えている。こうした中で、学びを続ける・楽しく健康に暮らすために、あらゆる視点から産官学民と連携し、地域人材とのネットワークを築いていきながら、学びの環境の充実に向け取り組んでいきたいと考えている。</p>
委員長	<p>市のお世話になる活動とそうでないものがあるということで間違いないか。</p>
担当者	<p>個別の学習に加え、社会課題の解決に繋がる行政として仕掛けていく学びを今後展開していく予定である。</p>
委員長	<p>行政の介入なく、民間での e-ラーニングであったり、文化センターであったり、大学の公開講座といったものも生涯学習活動としてとらえるとなると、生涯学習に関する市民意識調査で生涯学習活動がどういうものか回答者が理解した上で、回答できているのか。質問の仕方を工夫する必要があると考える。</p> <p>市民大学など、市の行う事業を利用することだけが、生涯学習活動とは定義していないので、幅広く民間や個人的な取組が生涯学習活動に含まれるものとして、調査時に偏りなく調査できているかどうかが問題であるのかもしれない。</p>

<p>委員</p>	<p>○資源の方向性</p> <p>総合振興計画 59 ページを確認すると様々な取組の方向性として、オンラインや地域情報のデータベース化が挙げられているが、これは教育委員会に質問をすべきか、事務局（共創企画課）へ質問をすべきか、迷うところであるが、地域情報のデータベース化は国のDX基本法において、様々なオープンデータ化が進められているが、このオープンデータ化を進めるためにはお金がかかるという話であり、お金の投入が現実的な問題となってくるが、オープンデータ化はこの施策に全て集約されており、この施策に多額のお金がかかるという理解でよいか。</p>
<p>事務局</p>	<p>オープンデータ化というと幅広い施策に関わるため、お金等を含めこの施策に全て含まれている訳ではない。</p>
<p>委員</p>	<p>この施策だけでなく、他の施策においてもオープンデータ化を進めているという認識でよいか。</p>
<p>事務局</p>	<p>そのような認識である。</p>
<p>委員</p>	<p>デジタル化施策の推進については、図書館システムの更改に合わせた施策となるので、具体的な指標を設定できなかったものと推測しているが、ロジック・モデルシートを見ても定性的に「デジタル化」という単語で書かれているにも関わらず、図書館管理運営については、指定管理業者が魅力あるサービスを考え、利用者数を増員するという流れしか書かれていないので、デジタル化推進により、利便性が向上し、利用者数が増えるという項目が抜けているのではないかと。</p> <p>事務事業評価シートもKPIとして、来館者数や貸し出し件数だけでなく、貸出機のデジタル化率、予約システムの普及率や電子図書館の利用率など、こういった指標をアップデートして、掲げる必要があると考えている。</p>
<p>担当者</p>	<p>図書館デジタル化推進事業は令和5年度から新設を予定していることから、施策評価シートの令和5年度新設予定の「図書館デジタル化推進事業」</p>

	<p>については、ロジック・モデルシートに入っていない。</p> <p>電子図書館の利用者数等の数値的指標については、指摘のとおり、今後、検討すべき事項であり、令和5年度のシステムの更改の中で、目標値を設定の上、実績についても管理していく。</p>
委員	<p>現時点で担当課として新たな事業を進める際、予算や人員が足りずに苦慮されている具体的な点はあるか。</p>
担当者	<p>予算については、施策評価シートの結果と今後の方向性において示しているが、図書館システムの更改やデジタル化に係るシステムの機能追加に伴い令和5年度は予算増加としている。</p>
委員	<p>令和5年度予算増の約3000万円は、システム構築に係る費用で、それ以外に新たに発生する費用はないという認識でよいか。</p>
担当者	<p>令和5年度予算増の約3000万円は、システム構築に係る費用である。令和6年度以降は、システムの維持管理に係る費用を計画しているため、令和4年度予算と比較すると高い計画額となっている。</p>
委員	<p>○その他</p> <p>戸田市の教育委員会は全国にその名を轟かせている部門であり、教育政策におけるEBPMをどう進めるかについて、全国から視察が大変多く来ている組織だと認識している。教育委員会で培ってきたEBPMにおけるノウハウは、この施策を推進するに当たり、どのように応用されているのか。</p>
担当者	<p>学校教育分野において、学習能力の伸びに関して、今までは結果のみであったが、学習能力がどれだけ伸びたか、指導方法がどのようなものであったのかということを知りながら子どもにとって有効な教育を産官学で連携しながら進めてきた経緯があるが、生涯学習分野におけるEBPMのノウハウの応用については、今後、産官学との連携を踏まえながら有効な施策の活用を検討していきたいと考えている。</p>

<p>委員長</p>	<p>施策5は、どのような社会的問題を解決するための施策なのか。</p> <p>また、施策指標3つのうち、2つが と感じている割合と主観的な指標であり、図書館及び博物館に関する指標であるが、どちらも個々の事務事業レベルのアウトカム指標となっているが、なぜこの2つが選ばれているのか。</p> <p>更にもう一つは、図書館を生涯学習の拠点であると感じている割合については、違和感があり、なぜ「図書館」という事務事業単位の話が施策指標にでてくるのか。</p> <p>先ほどご説明いただいた生涯学習活動の定義だと図書館等、市の機関に限らず学びを追い求めることを生涯学習活動と定義しているため、図書館に限り生涯学習の拠点であることを問うのは、つじつまが合わないように感じる。</p>
<p>担当者</p>	<p>当施策における3つの指標は、ある程度数字的な目標を取りやすいものを選択したというのが正直なところであり、委員長から指摘のあった指標の選択方法を基に考えると、ある程度幅広い範囲において、生涯学習に係る満足度等の指標を設ける必要があると実感したところである。</p>
<p>委員長</p>	<p>施策指標については、引き続き検討していただきたい。</p> <p>また、生涯学習活動がどのような社会的問題を解決するための施策なのかという点については、どうか。</p>
<p>担当者</p>	<p>人生100年時代というところで、いつまでも現役で学び続けることにより、知識に加え心も豊かになると健康の部分にも繋がっていくとともに、みんな生き生きと生活することができる状況を作り出すための施策である。</p> <p>戸田市は若い世代が多いが、町会活動の低迷や世代間交流等が少ない等、様々な社会的問題をこういった学びや活動を通し、解決に向け、取組を進めていきたいと考えている。また、行政だけではなく市民と一緒に考えながらともに歩いていくために、生涯学習活動の推進に今後も力を入れて取り組んでいきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>総合振興計画では、人生100年を迎え、自分らしく豊かに生きるための</p>

生涯学習と記載がある。果たして、市民が自分らしく豊かに生きていけるのか、今後の様々な社会情勢の変化や少子高齢化が進む中で、財政面も考えた時に、これまでの延長線上で推移していけるのか、という問題意識について確認したく、質問したものである。

5 閉 会